

特 殊 報

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員 } 殿  
農業資材販売等関係者

福岡県病虫害防除所長

平成17年度病虫害発生予察特殊報第3号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成17年度病虫害発生予察特殊報第3号

- 1 対象作物 ラン（デンファレ）
- 2 病虫害名 ランツボミタマバエ（*Contarinia maculipennis* FELT）
- 3 発生地域 福岡県南部、北西部
- 4 特殊報の内容
  - （1）発生確認の経緯  
平成17年9月、福岡県の南部と北西部のデンファレ栽培施設において、蕾を加害するタマバエの幼虫が発生し、当病虫害防除所に種の同定の依頼があった。九州大学湯川淳一名誉教授、沖縄県農業試験場害虫研究室上地奈美特別研究員に同定を依頼したところ、ランツボミタマバエであることが確認された。
  - （2）被害  
本種はランの蕾をゴール化して落蕾や奇形花を引き起こす（写真 ）。  
加害された蕾は、開花前に落下するか、開花しても食害部分は水浸状の染みとなるため商品価値がなくなる（写真 ）。
  - （3）形態  
ハエ目：タマバエ科  
終齢幼虫の体長は約2mmで乳白色（写真 ）、成虫の体長は約1.5mmで蚊に似ている（写真 ）。
  - （4）生態  
卵は半ば開いた花蕾の先にまとめて産みつけられる。孵化幼虫は蕾の中に潜り込み、花卉の内側を食害する。ゴール化したランの蕾には、多い場合は十数頭の幼虫が寄生することもある。終齢幼虫は体を折り曲げて跳ねて移動し、地中や鉢土の中で蛹化した後羽化する。
  - （5）寄主植物  
ハワイでは、ラン以外にもハイビスカス、ニガウリ、パクチョイ、トマト、ナス、ジャガイモ、ピーマン、ジャスミンなどの蕾を加害することが確認されている。

(6) 分布

本種は、東南アジアにおけるランの害虫で、近年、タイから米国フロリダ州に侵入し施設栽培されるランを加害している。また、オランダの検疫でもタイ産ランの花蕾から捕獲されている。国内では、1989年に沖縄県名護市のデンファレ栽培施設で発見されている。

5 防除対策

- (1) 苗の導入にあたっては、できるだけ本種に寄生していないことを確認する。
- (2) 本種が発生しているラン栽培施設では、被害蕾や地上に落下した蕾を速やかに除去してビニール袋等に入れ密封して処分する。
- (3) 棚下の地表部等にマルチを張り、蛹化場所を被覆する。
- (4) 本種は広食性の害虫のため、施設内の防除を徹底し施設外への脱出による拡散を防止する。

6 参考資料

- (1) 『最近、沖縄に侵入したランツボミタマバエとマンゴーハフクレタマバエ』  
植物防疫第58巻第5号(2004)九州大学院農学研究院湯川氏外:216-218
- (2) 『農作物病害虫診断ハンドブック』沖縄県植物防疫協会(2001):292



写真 蕾の被害



写真 花びらの被害



写真 ランツボミタマバエ幼虫



写真 ランツボミタマバエ雌成虫  
(沖縄県農業試験場害虫研究室上地奈美氏提供)